

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」

大阪市立塚本小学校
令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

「大阪市小学校学力経年調査」の児童アンケート「学校のきまりを守っていますか」の項目に肯定的な回答をしている児童の割合、令和5年 92.5%、令和6年 91.5%と高い水準を保っており、子どもたちが前向きに学校生活を送っていることがうかがえる。校内アンケートでも、学校での学習は楽しく充実していると感じている子どもが多い。一方で、コロナ禍の影響も考えられるが、基本的な生活習慣の確立に課題のある子どもが増える傾向にある。

学力に関しては、令和6年度「全国学力・学習状況調査」では、国語の平均正答率が69%で、大阪市平均を3ポイント上回り、全国平均も1.3ポイント上回った。算数の平均正答率は66%で、大阪市平均を4ポイント、全国平均を2.6ポイント上回った。また、「大阪市小学校学力経年調査」の結果では、学年が上がるにしたがって、学力上位層の割合の伸びが減る状況にある。国語科・算数科の研究を核に、話や文の内容を理解し、根拠や理由を明確にしなが、論理的に考える力を育てていきたい。

また、教職員の働き方を考えることで、子どもに関わる時間、教材研究や授業準備の時間を確保するとともに、デジタル教材や一人一台端末等の活用を通して、子どもたちの意欲の向上や基礎・基本の定着を図る必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に肯定的に回答する児童の割合を全学年85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれに学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・デジタルドリル等のデジタル教材を活用した授業を毎日実施する。
- ・ゆとりの日を週に1回設定するとともに、各教職員が週のうち1日は定時退勤する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・令和7年度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合を全学年85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれに学年も前年度より0.03ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く）
- ・ゆとりの日を週1回設定する。

3 中期目標及び本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は81%で目標の80%を上回った。
- 年度末の校内調査における不登校児童数は8名で在籍比率は1.34である。昨年度の1.25より増加しており、前年度不登校児童の改善の割合は40.0で減少している。しかし改善している児童は、出席日数が日ごとに増え、教室以外の場所であるが定期的に登校できるようになった。そのうち1名については教室に入って授業を受けることもできるようになっている。今後も、区役所やこども相談センターなど関係諸機関と連携しながら、児童に寄り添った対応を継続していく。
- 令和7年度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合は85%で目標を達成できた。
- 目標項目にはないが、物理的環境の安全安心を進めた。具体的には、2階3階の渡り廊下に落下防止柵の設置、校舎2・3階窓の開閉制限を行った。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は35.7%となり、昨年度の33.3%を上回ったものの、目標の60%には至らなかった。計画的に授業研修を伴う校内研究を積み重ねてきている。今後も継続した取り組みを進めていく必要がある。

○小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比は、

[国語] R 6年度 3年 1.05 → R 7年度 4年 0.98 -0.07

R 6年度 4年 0.95 → R 7年度 5年 0.99 +0.04

R 6年度 5年 0.99 → R 7年度 6年 1.00 +0.01

[算数] R 6年度 3年 0.99 → R 7年度 4年 0.99 0

R 6年度 4年 0.98 → R 7年度 5年 0.91 -0.07

R 6年度 5年 1.03 → R 7年度 6年 1.02 -0.01

という結果となった。5年の国語のみ前年度より0.03ポイント向上させることができた。どの学年も算数科に課題があり、算数科を中心に校内研究を計画的に進めてきている。今後も継続した取り組みを進めていく。

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童は昨年度の66.0%を上回り71.5%となったが、目標の85%には届かなかった。しかし、「好き」「どちらかと言えば好き」と肯定的に回答する児童は90.4%ととても高かった。「大なわ週間」「かけ足週間」など、全校で運動に親しむ機会を設け、大なわ週間の最後に大縄記録会を設定したり、かけあし週間に「かけあしカード」を用いるなど、児童の運動への意欲を向上させる工夫をした結果である。また、淀川区のスポーツ出前講座に多数申し込み、「水泳指導」「走り方指導」など運動技術の向上にも積極的に取り組み、楽しく運動する機会を増やしたことも効果的であった。

○小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合は47.1%となり、目標の65%を下回った。しかし、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に回答する児童の割合を見ると、78.2%と高い結果となった。

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、5月80%、6月90.5%、7月100%、8月75.0%、9月100%、10月90.5%、11月81.8%、12月52.9%、1月33.3%となった。年間達成率としては79.6%で、目標の50%を大きく超えることができている。

○ゆとりの日については、週1回設定することができている。

大阪市立塚本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(1) 【安心・安全な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 (R4年度 75.2 R5年度 73.4 R6年度 72.8 R7年度 81%) ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (R4年度 2.42 R5年度 1.13 R6年度 1.25 R7年度 1.34) ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 (R4年度 57.1 R5年度 50.0 R6年度 66.7 R7年度 40.0) ・令和7年度末の児童アンケートで「学校はたのしいですか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合を全学年85%以上にする(R6年度 86% R7年度 85%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>道徳の時間を要として、各教科、領域で話し合いやグループ活動で相互理解、共感を広げる心を引き出し、相手の立場に立って親切にする子どもを育成する。</p> <p>指標</p> <p>小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校の児童に対して担任だけで対応にあたるのではなく、学校全体で情報共有し外部の関係機関とも連携しながら対応にあたる。</p> <p>指標</p> <p>毎週の学年会や月1回の職員連絡会・生活指導部会において子どもの状況を共有し、課題や対応の共通理解を図る。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向3 豊かな心の育成】</p> <p>道徳の指導内容「主として人とのかかわりに関すること」の関連性から、望ましい人間関係を構築し、前向きな自己の生き方が自覚できるような子どもの育成を図る。</p> <p>指標</p> <p>令和7年度末の児童アンケートで「学校が楽しい」と肯定的に答える児童の割合を全学年85%以上にする。</p>	A

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 道徳の時間を中心に、話し合いやグループ活動を通して、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」ということを指導することができた。
- ② 不登校の児童を生活指導部会や職員連絡会を通して、職員に共有ができた。また学級担任だけで対応するだけでなく、職員全体や外部機関とも協力ができている。
- ③ 道徳の指導内容にそって、望ましい人間関係について考える機会を設け、前向きな自己の生き方につながるような指導をすることができた。

来年度への改善点

- ① 行動が伴わない児童については、引き続き個別、または全体で指導していく。
- ② 引き続き学校全体で不登校児童に対応していく。
- ③ 学校が楽しいと思えるように道徳を中心として望ましい人間関係の構築や前向きな生き方ができるよう指導を継続する。

大阪市立塚本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(2) 【未来を切り開く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を60%以上にする。 <p>(R4年度 38.2 R5年度 33.1 R6年度 33.3 R7年度 35.7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。 <p>[国語] R6年度3年 1.05 → R7年度4年 0.98 -0.07 R6年度4年 0.95 → R7年度5年 0.99 +0.04 R6年度5年 0.99 → R7年度6年 1.00 +0.01</p> <p>[算数] R6年度3年 0.99 → R7年度4年 0.99 0 R6年度4年 0.98 → R7年度5年 0.91 -0.07 R6年度5年 1.03 → R7年度6年 1.02 -0.01</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。 <p>(R4年度 70.7 R5年度 68.3 R6年度 66.0 R7年度 71.5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。(R7年度 47.1%) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 「主体的、対話的で深い学び」の視点で授業づくりをすすめる。</p> <p>指標 授業研修を伴う校内研修の中で、主体的、対話的で深い学びにつながる指導を5回以上行う。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の授業力向上を図る。</p> <p>指標 ・算数科『主体的に考え、話し合うことができる算数科指導の在り方』の研究授業を年3回行う。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 体力づくりカードの作成や、大なわ週間や運動能力 up 週間などの取組を年2回以上実施し、遊びや運動を通じた体力づくりを行う。</p> <p>指標 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・理科室の備品を整備、充実させることにより、実験や観察の学習に興味や関心を持って取り組む環境をつくる。</p> <p>指標 ・小学校学力経年調査における「理科の授業の内容はよくわかりますか。」に対して最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を65%以上にする。</p>	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 授業の中で、「対話の型を提示する」「毎時間5分以上話し合う場を設ける」などの手立てを行い、児童が主体的に学んでいける授業づくりに努めた。今後は、さらに研究が深まるように、引き続き計画を立てて取り組んでいく。
- ② 算数科の研究授業を計画通り実施した。研修や教材研究を重ねる中で、授業力の向上に取り組んできた。今後も授業力の向上を目指して校内研究に取り組んでいく。
- ③ ケイドロ週間や大縄週間などの体育にかかわる週間を計4回行った。今後も児童が外で活動するきっかけとなるように縄跳びカードや週間に取り組んでいく。
- ④ 理科支援員の協力を得て備品を整理し、実験の準備や内容を充実させることができた。

来年度への改善点

- ① 児童が、友達の意見に対して質問をしたり、共感したりするなどの対話をすることで、課題が解決できるような場面を学習の中に増やしていく。また、そのような授業ができるように研修を重ねていく。
- ② 主体的・対話的で深い学びの実現を目指して算数科の指導法を研究し、授業力向上に努める。
- ③ 体育の学習ではじめの5分などを使い、1年間を通した体力向上の取り組みや児童が休み時間に外で活動できるような取り組みを今後行っていく。
- ④ 来年度は理科支援員の配置がないので、今年度中に備品関係の課題や状況を把握し、来年度に改善できるように努める。

大阪市立塚本小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(3) 【学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く) (R6 年度 52.8 R7 年度 79.6) ・ゆとりの日を週1回設定する 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>デジタル教材等を活用することで、児童の学習への意欲と学力の向上を図る。</p> <p>指標</p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く)</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>会議や行事等の見直しを行うことで、業務の軽減化を図る。</p> <p>指標</p> <p>ゆとりの日を週1回設定するとともに、年度初めや学期末を除き、各教職員が週のうち1日は定時退勤する。</p>	B

中期目標及び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>① デジタルドリルやスカイメニュー、クラスルーム等のソフトを活用して学習に取り組めた。</p> <p>② ゆとりの日を設定することで定時退勤ができる日が増えてきた。また、標準授業時数を守るため時数削減を行った。しかし、保護者連絡や話し合い等で定時退勤が難しいことがある。会議等は精選されているが、その分各主任や部長の業務が増えている。</p>
来年度への改善点
<p>① 学校全体のきまりをつくり、より充実した学習者用端末の活用に取り組むようにする。</p> <p>② ゆとりの日を継続的に設定する。標準授業時数をまだ上回っているので行事等を考慮しながら一人ひとりの業務見直しを行いながら、来年度に向けても余裕のある学校運営に努める。</p>